イワアカザ　*Chenopodium gracillispicum* H.W.Kung

【評価理由】

不安定な、しかしそれなりに自然度の高い立地に生育し、確実に観察することが困難な植物である。愛知県においても生育地、個体数ともに極めて少ない。現時点では観察できないが、再出現する可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形　態】

1 年生草本。茎は細く、直立して分枝し、高さ 60cm 内外になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は 3 角状卵形、ひし状卵形または卵状楕円形、長さ 3～5cm、幅 2.5～4.5cm、先端は鋭頭、基部は広いくさび形～切形、質は薄く、辺縁に歯牙がある。花期は 8～9 月、花は円錐花序にまばらにつく。胞果は扁球形で表面に乳頭状の突起毛があり、種子は黒色で光沢がなく、直径 1～1.2mm である。

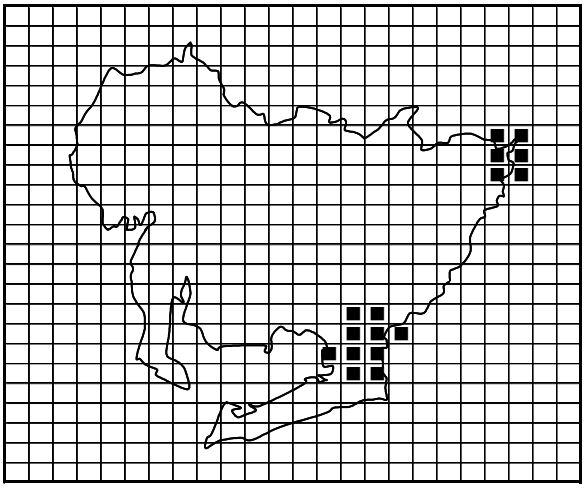
【分布の概要】

【県内の分布】
東：15 豊橋北部（芹沢 83355, 2008-9-20）。1 富山（小林 53106, 1994-8-7）でも採集されたことがある。

【国内の分布】
本州、四国の山地に稀に生育する。

【世界の分布】
日本、朝鮮半島南部、中国大陸東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の礫の多い沢、崩壊地、林道わきなどに出現するが、たいていの場合散発的である。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩	○			
湿 地				
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋は長い間現状不明であったが、2000 年になって火事跡地に突然かなりの個体数が出現した。2008 年には貧弱な個体が少数生育していたが、現在では確認できない。富山では、たまたま 1 株に行き当たっただけという。

【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生じ、しかも希少な植物は、具体的な保全対策が立てにくい。崩壊地も自然要素の一つであり、ある程度は保全すべき場所であることを認識する必要がある。またこのような植物については、保険的措置として、人為的な系統保存を検討してもよい。

【特記事項】

2009 年版およびグリーンデータブックではイワアカザとミドリアカザを区別せずにミドリアカザの名を用いたが、両者を区別すれば愛知県のものはイワアカザに当たる。

【関連文献】

保草Ⅱp.292, 平草Ⅱp.47, 平新版 4 p.138, 環境省 p.53, SOS 旧版 p.48.